

滝尾中部地区

(大分県大分市)

計 画 期 間 平成 19 年度 ~ 23 年度

面 積 140ha

交付対象事業費 2,020 百万円

市人口 475,233 人 (地区内人口 8,100 人)

ポイント 行政と地域が一体となって防災力・防犯力の強化に取り組む。

地区概要 都市計画道路、通学路の整備並びに地域生活の拠点である公民館の整備等を推進する事で、防災、防犯性の向上を図り、安全、安心で快適な住環境を形成する。

目 標 防災、防犯のまちづくりによる、安全、安心でうれしい快適な住環境の形成を図る。

指 標 幹線道路や通学路の整備を行うハード事業と、防災・防犯をテーマにしたワークショップなどのソフト事業を組み合わせることで、地域防災力や防犯力の満足度アップや自動車交通不満度解消の目標とした。

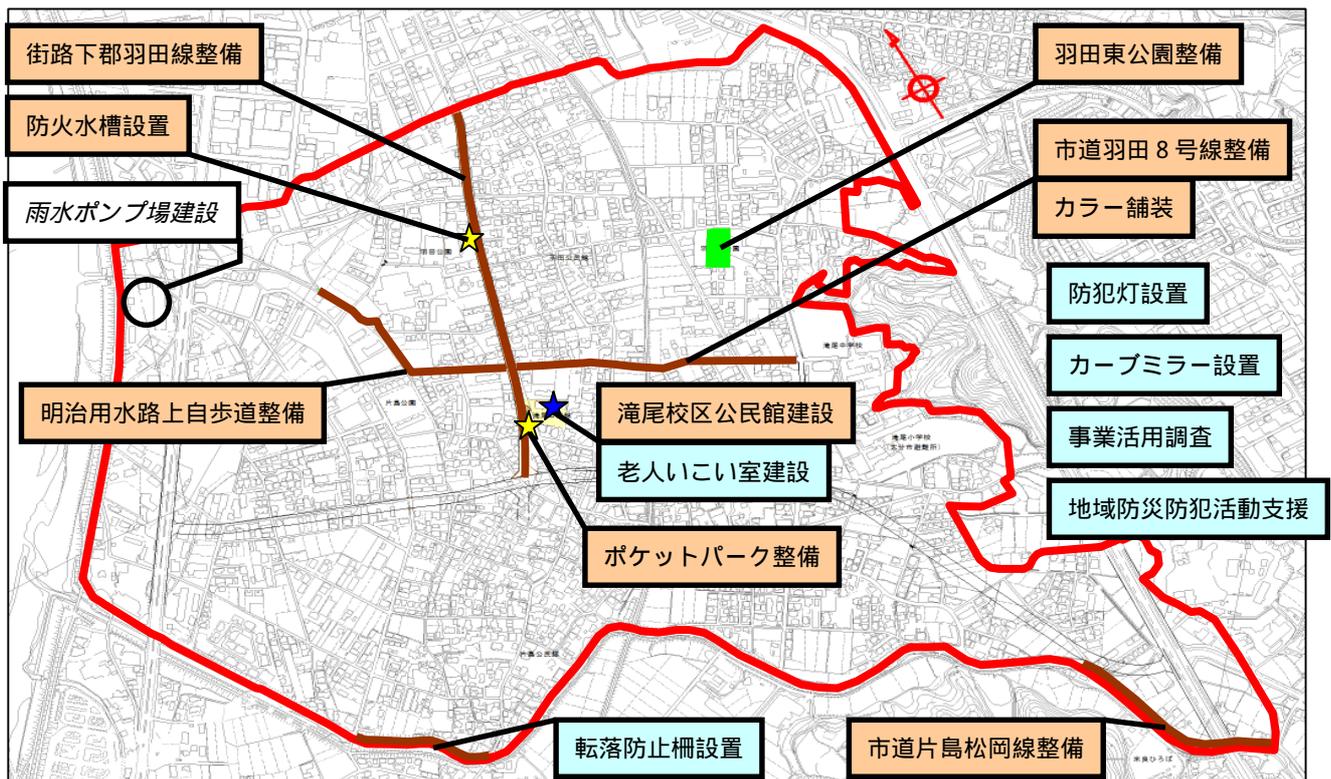
地域防災力・防犯力向上についての満足度	23% (H17)	40% (H23)
防災防犯活動への参加者の割合	5% (H17)	10% (H23)
自動車交通についての不満度	83% (H17)	70% (H23)
公民館の年間利用者数	20,000 人 (H17)	24,000 人 (H23)

事業内容 基幹事業 (1,971 百万円)

道路 (幅員 14.0m ~ 4.0m、延長 1,800m) 公園 (多目的トイレ) ポケットパーク (1カ所、250㎡) カラー舗装 (幅員 2m、延長 450m) 地域交流センター (1カ所、440㎡) 防火水槽 (1箇所)

提案事業 (49 百万円)

防犯灯 (33基) カーブミラー (10基) 転落防止柵 (延長 220m) 老人いこい室 (1カ所、58㎡) 地域防災防犯活動支援



地区の現況と課題

滝尾中部地区は大分市中心市街地の外縁部にある住宅密集地であり、区内には県内有数の児童・生徒数を誇る大規模小中学校が立地していることから、通学する児童・生徒が多い上、高齢者も多数居住しています。しかし、地区内の道路の多くは歩道が未整備のままであり、歩行者に対する安全性が低い状態です。また、災害時に避難場所としての機能を持つ公民館や公園は、施設の老朽化などにより機能が低下しているため、耐震性強化などの面から施設の改善が必要となっています。

基幹事業の特徴

道路

南北方向に幅員 14m の都市計画道路を整備することにより、円滑な道路交通体系の形成を行います。また、新規の自転車歩行者専用道路や、既設道路に組立歩道を整備し安全な通学路を確保します。

地域生活基盤施設

滝尾校区公民館の前にポケットパークを整備することにより、うるおいある快適な都市空間を形成します。

高次都市施設

老朽化した滝尾校区公民館の建替えを行い、地域の交流拠点、防災拠点として活用できるようにします。

提案事業の特徴

防犯灯設置

地域中心の都市計画道路及び東西方向の歩道に青色照明灯を設置し、防犯性を高めると同時に、バッテリーを搭載することで、災害時の停電の際にも、公民館・小学校・公園などの非難場所への避難誘導路となるように整備します。

カーブミラー・転落防止柵の設置

滝尾中部地区住環境整備促進協議会等の地域住民が現地を歩いて調べ、ワークショップで検討した結果をもとに、安全な歩行空間の確保に寄与するものを設置します。

地域防災防犯活動支援

地元自治会、PTA、警察等が一体となり、防災・防犯マップの作成や避難訓練などを行い、防災防犯意識の向上を図ります。

計画策定プロセス

自立した地域住民の取組み

地元住民で「滝尾中部地区住環境整備促進協議会」を設置し、まちづくりの方針等を検討してきました。また、本組織は「まちづくりニュース」を作成し地区内の全世帯に配布、さらに、地区毎の説明会やワークショップ、アンケートを実施するなどまちづくりの意識啓発を自主的に図っています。

継続的なまちづくり

本事業は平成 23 年度までの第 1 期整備計画に引続き、滝尾地区の東西方向を結ぶ幹線道路整備を中心とした第 2 期整備計画を予定しており、この実施に関しましても行政と住民との協働組織により取り組むこととしています。



児童・生徒の通学状況



市道羽田 8 号線カラー舗装



防犯灯のイメージ



ワークショップの様子